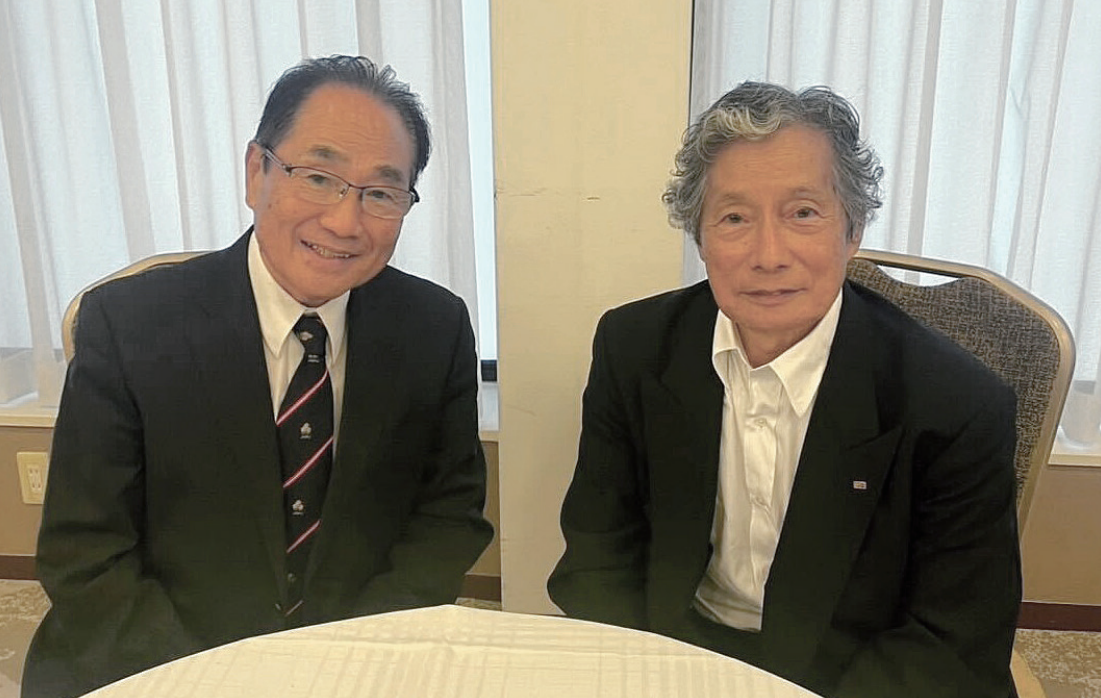


近鉄×リコーの
定期戦は
今年で 50 回目

両チームの 「黄金時代」を支えた レジェンド対談



今里 良三（いまざと・りょうぞう）

1947 年（昭 22）生まれ。現役時代のポジションは SH。報徳学園から中大に進み、69 年（昭 44）に近鉄に入社。その年に全国社会人ラグビーフットボール大会優勝を経験し、74 年（昭 49）にもリコーを破り再び優勝。日本代表としては 69 年から 76 年（昭 51）にかけてプレーし、テストマッチが少ない時代ながら 23 キャップを獲得。勇退翌年の 79 年（昭 54）には日本代表監督も務めた。その後は近鉄ラグビー部監督、ラグビー運営部長など要職を歴任。23-24、24-25 シーズンはリーグワンで戦う花園近鉄ライナーズに復帰し、チーム統括・アドバイザーとして強化をサポートした。

水谷 眞（みずたに・まこと）

1946 年（昭 21）生まれ。現役時代のポジションは CTB・WTB。日本代表キャップ 4。目黒（現・目黒学院）から法大を経て 1970 年にリコーに入社。70 年度（昭 45）、72 年度（昭 47）、73 年度（昭 48）に全国社会人ラグビーフットボール大会優勝。72 年、73 年は日本選手権も制した。76 年（昭 51）からは指導者としてチームを支え、1980～2000 年代にリコーラグビー部監督や総監督、副部長などを務めた。その頃にリコーに在籍した FW のエディ・イオアネは、花園近鉄ライナーズに所属する元 NZ 代表 NO8 アキラ・イオアネの父。“アキラ”は水谷氏の息子の名前をとって名付けられたことは有名。

近鉄ラグビー部（現・花園近鉄ライナーズ）とリコーラグビー部（現・リコーブラックラムズ東京）による定期戦が始まったのは 1976 年（昭 51）。当時、両チームはそれぞれ関西と関東を代表する社会人ラグビーの強豪として、全国大会でしのぎを削っていました。73 年度（昭 48）、74 年度（昭 49）には 2 年連続で全国社会人ラグビーフットボール大会の決勝で激突し、熱戦を演じています。今回は今年で 50 回目を迎える定期戦が始まった頃の空気や熱を、両チームのレジェンドにお聞きしました。

近鉄とリコーがしのぎを削った 2 度の決勝戦

今里 （全国社会人ラグビーフットボール大会の）決勝戦では 2 度戦いましたよね。1973 年度（昭 48）の決勝は 3-4 で近鉄が負けました。花園のインゴールは結構広いのですが、そこへポーンと蹴られたんですよ。僕がボールを追いかけたんですが、リコーのウイングの有賀（健）が、だーっと走って押さえてトライした。当時のトライは 4 点。うちはペナルティゴール 1 本しか取れず負けてしまった。確かインゴールノックオンを 2 回ぐらいしたんですよ。うわあ、悔しいなあ。今度は絶対勝たないかなあと思ったのを覚えています。

水谷 後半、ゴール前でペナルティをしてしまった場面があった。PG を狙うのかと思ったけれど回してきた。あれに助けられるかたちになったんだよね。

今里 PG を狙うかどうかの判断は自分にまかされてい

たんです。狙えば勝てていたかもしれない。でも、頭が真っ白になっていて、ラグビーはトライを取って勝つものだと考えてしまった。それで攻めたんですが、結局ディフェンスに負けてしまって。ディフェンスはお互い強かったんですけど、リコーのディフェンスはすごかった。めちゃくちゃシャープで前に出てくるんですよ。うちもいい BK が揃っていたんですけど、ボールを回すと僕の目の前で潰されて下げられる。ものすごいプレッシャーを感じました。

水谷 近鉄にはウイングに世界的な選手だった坂田（好弘）さんがいたので、そのマークをずっとしていました。うちはがむしゃらにやるしかないなって感じですよ。リコーは 1970 年（昭 45）に大量補強をした急造チームだったから、作戦に則って戦うのはあまり得意ではなかったんです。急造だという意識があるから少しチームワークにこだわりすぎて、暴れられないこともあったね。

今里 自分たちが決勝戦で対戦したときには、よくまとまっていたし洗練されていました。ジャパンプラスの選手たちが組織で戦っていたのだから強いですよ。

水谷 その次の1974年（昭49）の決勝は、自分はケガで出られなかった。

今里 そうでしたね。前の年にPGを狙わなかったことが結果に響いたので、前半からPGを2本決めて。1本返されて6-3になったのかな。とにかくキックアンドラッシュ（キックを蹴り込み、争奪戦を挑んでいく戦術）で行ったんですよ近鉄は。もうことごとく。

リコーのディフェンスは、多少混乱した場面でも必ず誰かが出てくる。我々がアタックしていても、必ず誰かが出てくる。FL陣のディフェンスもよかったし、BKのディフェンスもよかった。正直言ってボールを回すのが怖かったんですね。だからキックアンドラッシュで攻めてFWを前に出していったんです。

定期戦がさらに続いていくためには やっぱり両チームが強くなっていくこと

——そんな熱戦の翌々年、76年（昭51）に近鉄とリコーの定期戦が始まりました。これは力を認め合っていた強豪同士で試合を、といったものだったのでしょうか？

水谷 近鉄とリコーの間で定期戦が実施されるようになったのは、ビジネスでの繋がりがきっかけです。1972年（昭47）、福岡の博多駅そばに両社が九州事務所を置く「福岡リコー近鉄ビル」が建って。そこで縁が生まれた役員同士がともにラグビー部の活動に関わっていたことから話がはずみ、日本ラグビーの将来や展望を語り合う中で「定期戦」という構想が生まれたそうです。「強豪同士でやろう」というよりは、もう少し危機感があったんじゃないかな。2年連続で決勝戦を戦った次の年、75年（昭50）は両チームともに決勝まで進めなかったんです。「もっと頑張らないとまずいぞ」というムードだったのを記憶しています。

今里 大阪の花園と東京の世田谷・砧で交互にやっていたんですけど、最初は長居競技場も使ったんですね。

水谷 秩父宮と花園で交互にやっていた全国大会を除くと、当時は遠方で試合をやるというのは珍しかったから特別なものだったな。近鉄との定期戦は僕らは日帰りだったので、一緒にゆっくり食事をしたりする時間はなかったんだけど、アフターマッチファンクションで交流していい関係ができた選手もいたよね。

——定期戦は今年でついに50回を迎えます。

水谷 互いに優勝を経験して、「もう一度」という思いで支えてくださった方々がいた。そして、それに応えようと頑張ってくれる選手やスタッフがいたから続いてきたんだね。

今里 近鉄も同じです。結果を出すのはなかなか難しいですが、それでも選手やスタッフが努力する姿を見て、応援しようと思ってくださった方々のおかげですよ。

水谷 さらに続いていくためには、やっぱり両チームが強くなっていくことが大事。今のリコーはチャンスがあるよ。SHのTJ・ペレナラは惚れ惚れするね。パチッと入って、優しいパスを投げて、動いて動いて。すごい。

今里 私たちも後輩たちにエールを送って、少しでも熱を伝えていきたいですよ。ラグビーっていいですもん、楽しいですもん。

水谷 そう。ラグビーは最高だよ。

近鉄とリコーの定期戦の戦績

年度	近鉄	リコー	年度	近鉄	リコー
1976	11	- 20	2001	22	- 31
1977	39	- 24	2002	26	- 7
1978	54	- 22	2003	14	- 61
1978※	39	- 20	2004	28	- 26
1980	50	- 29	2005	19	- 40
1981	33	- 24	2006	28	- 17
1982	4	- 30	2007	7	- 55
1983	34	- 12	2008	47	- 26
1984	24	- 18	2009	19	- 19
1985	22	- 42	2010	7	- 49
1986	12	- 42	2011	5	- 35
1987	40	- 14	2012	28	- 19
1988	10	- 31	2013	7	- 19
1989	4	- 26	2014	26	- 33
1990	4	- 44	2015	40	- 24
1991	13	- 13	2016	26	- 12
1992	13	- 21	2017	14	- 26
1993	3	- 62	2018	10	- 7
1994	23	- 30	2019	21	- 7
1995	59	- 52	2020	0	- 36
1996	19	- 26	2021	22	- 42
1997	30	- 75	2022	12	- 33
1998	10	- 50	2023	29	- 36
1999	31	- 29	2024	21	- 52
2000	57	- 21	2025	38	- 31

通算50戦 近鉄21勝 リコー27勝 2分

※1978年度は2回開催